



BSR 通信

BSR 推進室ニュースレター第 5 号

平成 26 年 8 月 10 日

発行：大正大学 BSR 推進室
〒170-8470 東京都豊島区西巢鴨 3-20-1
03-5394-3079（直通）
bsr_lab@mail.tais.ac.jp

本家「さざえ堂」を訪ねて

図書館長・鴨台プロジェクトセンター長
塩入 法道

大正大学にさざえ堂（鴨台観音堂）が建立されて 1 年ほどになります。毎日目にしている我々には、すでに馴染んだ建物ですが、初めて目にする者は「あれ？この建物は何だろう」と思うでしょう。変わった建築です。このお堂は、白虎隊で有名な会津の飯盛山にある国重要文化財のさざえ堂を模したものです。

先日、お堂のボランティアガイドをしている地域の方や学生と会津のさざえ堂をお参りする機会がありました。猛暑の中、飯盛山に登り白虎隊の墓を参拝した後、さざえ堂の前にたずみました。やはり木造で年月を経ていたので風格と落ち着きがあります。持参した法被を着て涼しい顔で記念撮

影（本当は汗だくでした）。こちらは中に入るのに拝観料が必要です。内部は階段ではなくスロープで、登り易いように横木がほどこされていますが、防腐剤が塗られていて滑りやすく足元が不安でした。また本学のお堂と違い各層の中心に、登り降り双方のスロープへ移動できる通路があります。

会津のさざえ堂は、六角三層で高さは約 16 メートル。寛政 8（1796）年、正宗寺の郁堂和尚によって建立された「円通三匝堂」というのが正式名称ですが、現在は個人の所有になっています。もともとは西国三十三観音が安置されていましたが、明治以降は中国の二十四孝にならった「皇

朝二十四孝」の絵額が配置されています。

そもそも、さざえ堂とは三層構造を基本とし、内部の回廊が下から上まで螺旋状に設置されているのが特徴です。江戸中後期に東日本各地に忽然として登場しました。10 宇以上造られたようですが、現存しているのは 6 例ほど。百あるいは三十三観音像を安置したところが多いので「観音堂」、または往復 3 回めぐるので「三匝（さんそう）堂」などとも呼ばれます。「さざえ堂」というのはその形による通称です。

この様式の建物は日本の仏堂建築の伝統からは生まれてこない発想であると、建築史の専門家はいいま

目次

- 1 頁：巻頭言
- 2 頁：さざえ堂だより
- 3 頁：研究ノート
- 4 頁：BSR 図書室・今後の予定

す。なぜ江戸も中期以降になってこんなお堂が造られたのか。かのレオナルド・ダ・ヴィンチが関わったとされるフランスのシャンポール城の二重螺旋階段など、遠くヨーロッパの建築につながっているともされます。八代将軍吉宗の洋書解禁により、オランダ経由で多くの書物や絵画が輸入され、その影響が当時の秋田藩主で画家の佐竹義敦（曙山）も二重螺旋階段のスケッチを残しています。どうもこのあたりが接点になっているらしいと学者は指



摘しています。

ここにお参りするだけで諸国の観音霊場を巡礼するのと同じご利益が得られ、しかもユニークな造りのさざえ堂は、江戸庶民にとって人気スポットだったことでしょう。本学のお堂は旧中山道沿いにあります。江戸時代にも巢鴨辺りにさざえ堂が建っていたら…などと想像をたくましくしながら、飯盛山を後にしました。

会津さざえ堂を背景に鴨台さざえ堂のお堂番さんたちと記念撮影

さざえ堂だより お堂番さんインタビュー

多い日では 300 人以上もの参拝者が訪れるさざえ堂。そこには、訪れた人を案内する「お堂番さん」の存在が欠かせません。そこで、そのお堂番さんのことをインタビュー形式で紹介させていただこうと思います。

今回お話をうかがったのは、西川栄治さん。昨年 9 月よりおつとめいただいている、お堂番さんの中心的存在です。



大正大学とのご縁はいつぐらいからでしょうか？

平成 22 年度のとしまコミュニティ大学のひとつで、大正大学で開講された『仏の教えを広く学ぼう』という講座に参加してからですね。その時、塩入法道先生に出会い、今も豊島くみんアカデミーという形でご縁をいただいています。

お堂番さんになろうと思ったのはなぜですか？

これもまた、塩入先生にご紹介いただいて。これまで、町内会や老人会に参加しても、地域や年齢の制限があったでしょう。でも、お堂番だったら地域や世代を超えた交流の機会を得られると思ったのです。

仏教に特に興味があったわけではではないんですね？（笑）

いやいや。お堂番を通して仏教の理解が深まるのではないかという期待

もありましたよ。あとは、多少でも功德を積むことができればいいなと（笑）

実際にお堂番さんをされてみてどうでしょうか？

日本人はあまり信仰心を外に出さないと考えていましたが、熱心にお参りされる方も結構いらっしゃるんだと気づかされました。

また、さざえ堂には多くの方がお参りにきますが、みなさん求めていることが違ったりします。地方からわざわざ訪れたという人はちゃんと説明を聞きたいと思ってらっしゃるでしょうし、近くに住んでいる人、あるいは何かの用事のついでに寄ったという人はそれほど説明を求めてなかったりします。だから、それぞれの参拝の「邪魔」にならないように、ということをお心にかけています。

なるほど、相手の気持ちを考えて、というのは大切ですね。西川さん、ありがとうございました。（T）

研究ノート

臨床宗教師の可能性③

—スピリチュアルケア師—

臨床宗教師は認定資格ではないことは以前紹介しましたが、近似する領域で資格を認定している日本スピリチュアルケア学会（以下、JSSC）という学術団体があります。2007 年に発足した当該学会は、聖路加国際病院名誉院長の日野原重明氏を理事長におき、医療、宗教、学術の領域からスピリチュアルケアについての学術的、実践的なアプローチを行っています。そこで、今回は JSSC が認定する資格、「スピリチュアルケア師」について紹介しましょう。

スピリチュアルケアとは？

そもそも、スピリチュアルケアとはどのような意味なのでしょう。スピリチュアルという言葉は、日本語で「霊的な」とか「精神の」という意味で訳されています。その元となるスピリチュアリティという語は、「霊性」と訳され、教団や伝統に拘束されない個人的・非制度的な宗教意識を示す言葉として用いられています。

JSSC では、意外なことにスピリチュアルケアの明確な定義を行っていません。というのもスピリチュアルケアとは、医療や宗教、その他の領域にまたがる言葉であるため、「固定的な定義を持ち得ず、それぞれの理論的かつ実践的場面で種々様々に変容する」ものであるとみなしているからです。

しかしそれではあまりにとらえどころがないので、アメリカの例をもとに考えてみましょう。アメリカでは日本より早く、ホスピス運動の中でスピリチュアルケアが医療や看護の現場で取り入れられていま

ました。そこでは、もう少しはっきりした言葉で紹介されています。たとえば、メリランド大学メディカルセンターでは、スピリチュアルニーズへの助けをスピリチュアルケアとしています。スピリチュアルニーズとは、人間が生きていく中で直面する様々な問題に対してわきおこる疑問、たとえば、「なぜ私にそれは起こったのか？」「人生の変化についてどうとらえたらよいのか？」「なにが私に癒しや希望を与えてくれるか？」といったようなものだといえます。

存在意義や自分自身の根源に関わる問いが生じたときに、宗教的な教えや行が私たちを助けてくれることもあるでしょう。一方で、個別具体的な教義では、すくいとることのできない私たちの思いもあるでしょう。悩みを抱える人の信仰の有無にかかわらず、「なぜ？」「なにが？」という問いに包括的にアプローチするのがスピリチュアルケアといえるのではないのでしょうか。

スピリチュアルケア師の資格

JSSC の認定するスピリチュアルケア師には、「認定」、「専門」、「指導」という 3 つの種類があります。

スピリチュアルケア師を目指す人は、まず JSSC が設けた基準を満たす「認定プログラム」という人材養成講座を受講・修了しなければなりません。このプログラムの取得単位数に応じて、「認定」、「専門」の区分がなされます。一方、「指導」資格は、「認定プログラム」で 2 年以上人材養成に携わっているスピリチュアルケア師に認められる資格です。まさに、スピリチュアルケア師を目指す人を「指導」する立場にある人に認められた資格なのです。

現在、JSSC は 8 つの団体の講座を「認定プログラム」として認めています。どの団体のプログラムも、基礎領域と専門領域に関する専門職大学院レベルの教育内容で構成されます。基礎領域では、思想・宗教・伝統・文化といったスピリチュアルケアの基礎となる知識、対人関係における社会学的心理学的メカニズムの理解、援助関係における「権力」構造の理解などを扱います。専門領域には、グループワークやスーパービジョンによるケアの能力の習得・向上、臨床現場におけるチームケアに参加しての臨床実習などが含まれます。基礎・専門両領域合計で 300 時間以上の学習・実習をへて、ようやく「スピリチュアルケア師（認定）」の資格が取得できるのです。「専門」資格の場合は、合計 500 時間近い学習・実習にくわえて、研究活動も必要になります。

この資格の興味深いところは、5 年ごとに資格の更新があり、5 年間で 400 時間以上の臨床活動、10 本の事例報告、2 回以上の学術大会参加が更新の必要条件として設けられていることです。したがって、資格習得者は「ペーパー」スピリチュアルケア師にならないよう、常に現場に携わり、自己の研鑽に努めなければならないのです。

また、今年度より東北大学の寄附講座である臨床宗教師も「認定プログラム」に加わりました。研修修了者に対し、さらなる個人スーパービジョンをへて「スピリチュアルケア師（認定/専門）」の資格が認定されるとのことです。

このように、スピリチュアルケアに対する共通の基盤をもち、現場に携わる人々がネットワークをつくることで、新たな可能性が広がることでしょう。(T)

BSR 図書室

星野哲 『終活難民-あなたは誰に送ってもらえますか』

(平凡社、2014 年、760 円 + 税)

本書は、朝日新聞記者である著者が、立教大学大学院に提出した修士論文をベースに加筆修正したものです。新聞記者らしい豊富な取材に基づいた分かりやすい語り口と、学术论文の精密さを兼ね備えた、新書ながら読み応え十分の一冊です。

まえがきの冒頭はこう始まります。

「人は死ねば弔われる。それは自明なことなのでしょうか？」

これは、私たちが「死んでも弔われないかもしれない」という不安な時代を迎えつつあることを示しています。終活ブームといわれる昨今ですが、それは、自分の死の面倒（死を迎えることから、死後の処理まで）を自分で見なければならぬということ、言ってみれば、「安心して死ぬことができない社会」でもあります。

本書では、「終活をはじめてみたものの死後のことを託す人がなかなかみつけれない」「経済的な理由や情報の不足などから終活を思うようにできない」といった状況の人々を「終活難民」として、そうした人々の現状、そして、死後事務や埋葬の生前契約



を請け負う NPO の活動などを紹介します。

本書の掲げる課題は、寺院の課題でもあることは言うまでもありません。イエの行事としての葬儀・法事、「檀家」というイエを主体とした護持組織、これら寺院を支えてきたシステムの維持はますます困難になっていくでしょう。しかし、著者は、寺は個人をつなぐ新たな共同体の核となり得るのではないかと、葬式仏教に誇りを持ってほしい、と寺院への期待も表明しています。

この期待にどう応じるか。寺院の未来を考える時、「終活」とどう向き合うかが問われています。(O)

今後の予定

8 月 16 日 (土)	11 時～12 時	花会式 (子ども寺子屋)	鴨台観音堂前
		※ 法要はありませんが、夏休み特別企画として	
		子ども向けに雅楽鑑賞会をおこないます	
	12 時～16 時	鴨台カフェ 僧話花	5 号館 1 階
9 月 20 日 (土)	11 時～12 時	花会式 (導師:塩入法道先生)	鴨台観音堂前
	12 時～16 時	鴨台カフェ 僧話花	5 号館 1 階

